

平成26年4月1日、市役所で辞令交付式が行われました。辞令交付式には、新規採用職員19名のほか、昇任した職員が参加。その際の市長あいさつを紹介します。



みなさん、おはようございます。
今朝、歩いて市役所まで来る途中、ツバメが飛んでいました。桜も咲きました。

新規採用職員のみなさん、長久手市役所に応募し、見事合格され、入庁いただき、ありがとうございます。

さて、みなさんも、消費税が上がる前に、レストランや喫茶店に行ったり、洋服を買いに行ったりされたと思います。それらのお店の店員に、ムセっとしていたり、ニコリともしない店員はおられましたか。どのお店も笑顔でお客様をお迎えし、従業員も経営者も売上、利益を上げようと努力をされています。

先日、市内にある日東工業株式会社から、市のためにと500万円のご寄付をいただきました。リーマンショック後、何とか利益を上げるために、5S運動を実施したり、効率を上げる努力をされたりして、みんなで必死になって取り組んだおかげで、利益が上がりましたので、ぜひ、市のために役立ててくださいとのことでした。

市は、そういう思いで働いてみえる市民の方々からの税金をいただいて成り立っています。

私は、市職員は、市民のみなさんのスタッフであると考えています。市民のみなさんが、自分たちのまちを自分たちで作っていくために、スタッフとして市民のみなさんを支える存在です。だからこそ、市民のみなさんが市役所に来られた際には笑顔で迎えるのは、当たり前なことなのに、まだまだそれができていないと感じます。

今日、この場には、昇進された職員もいらっしゃいますが、「相手を思いやる」「声掛けをする」は市民の方に対してだけではなく、職員同士でも言えることです。昇進された方には、それぞれの部署で率先して取り組んでほしいと思います。

役職者は仕事だけでなく、どうしたら自分の部署のスタッフが気持ちよく働けるのか考えてほしいと思います。それがしいては、このまち全体で、「大丈夫ですか?」「元気でやっていますか?」などのちょっと声掛けをする、人のことを思いやるという気持ちにつながるとと思います。そういう気持ちが、このまちに充満したとき、日本一の福祉のまちはできるんです。

昇進された方は、自分の課のスタッフ、係のスタッフ全員があいさつできるようになるにはどうしたらいいのか考えて、工夫してほしいと思います。あいさつすることは当たり前のこととしてやってください。

新規採用職員のみなさんは、先輩たちは、まちを歩いても、役所の中を歩いても、住民の人とすれ違っても、ちゃんとあいさつができるか、よく見ていてください。

ぜひ一緒に協力していただいて、一緒にいいまちをつくっていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。